

第4回革新的製品創出サロン（開催後記）

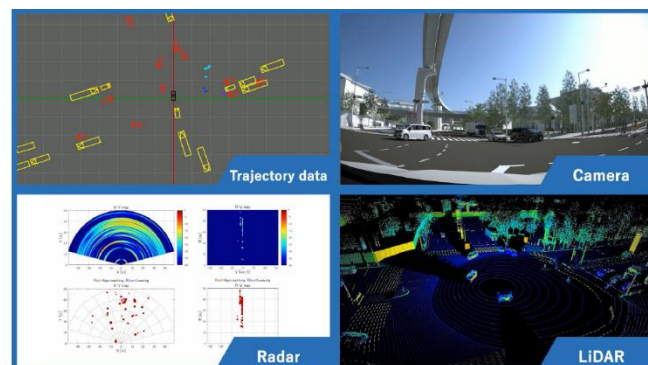
「2025年度第4回サロンを2026年1月30日に中部生産性本部内セミナールームにて開催した。

今回は「モビリティ」をテーマに“自動運転技術開発の歴史と現状”と“次世代自動車の社会的受容”の講演2件を聴講。その後情報提供として“経産省企業支援施策”、および会員企業ニュースに関する情報提供をいただき、最後に同会場にて講師等を囲むワンコイン交流会を開催し予定通りに閉会した。

★講演1 「自動運転に関する金沢大学のこれまでの取り組みと**その社会実装に向けたムービーズの取り組み」**

講師：金沢大学 高度モビリティ研究所副所長・教授 菅沼 直樹氏

- ・講師の菅沼直樹氏は自動運転の研究開発分野では草分け的な研究者である。
- ・講演では研究草創期～後期にいたる自動運転車両の変遷を研究の進展と対応させて振り返り、十年余の技術蓄積が日本各地で進行中の社会実装に役立っていることを確認。
- ・さらに各種AIモデルを活用し、**仮想空間を用いて自動運転の安全性を評価**（右図）。
- ・一方でロボタクシーの開発企業㈱ムービーズを立ち上げ、過疎地の課題解決策として、ロボタクシーのサービスを実証・実装試験中。



(図)アノテーションにより安全性評価が可能に

★講演2 「新モビリティの社会的受容」

講師：名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 山本 俊行氏

- ・交通工学の研究者である山本氏が需要予測理論に沿ってアンケートに基づき燃料電池自動車の購入調査を行った。購入希望層および買い替え理由は周りの実事例と見事に一致し、予測理論の有効性を確認できた。
- ・名古屋市名東区を対象に自家用車の必要台数を計算。同区は住宅地、16万人、都心には主に地下鉄利用である。もし自動運転車やシェアカーが普及した場合、名東区内での交通に必要な台数は約600台！と、読み取れ（資料p29）、**現保有台数6万台の約100分の1で用が足せる**との衝撃的な結果となった。
- ・高蔵寺ニュータウンにドア・ツー・ドアの公共交通（PRT）導入可能性のシミュレーションを行い、既存バス等のインフラと統合することにより、効率的な運航が可能であるとの結論を得ている。
- ・なお、自動化やEV化のメリットを社会的便益から説いて頂く期待は外れた（事務局のツメ不足反省！）

★話題提供「2026年度予算（2025年度補正含み） 企業支援施策の概要」

提供者：中部経済産業局中小企業課 総括係長 名畑 拓真氏

★会員企業さまから話題提供「当社第3工場の竣工」

提供者：(資)マルワイ矢野製陶所 代表社員 矢野 仁氏

★会員企業さまへお知らせ「革新的製品創出サロンは今年度で活動を停止」

通知者：中部生産性本部専務理事 彦坂 謙二氏

★ワンコイン交流会（ネットワーキング）

- ・最後に講演会場のコーナーで講師等のお三方を囲むワンコイン交流会を開催し、1分間スピーチ等でフリートークキングが弾むなか閉会した。

(以上)